

入 札 説 明 書

「弘前大学（本町）放射線安全総合支援センター研修棟（仮称）新営その他機械設備工事」に係る入札公告（建設工事）に基づく一般競争入札については、関係法令に定めるもののほか、この入札説明書によるものとする。

1 公 告 日 令和7年7月30日

2 国立大学法人弘前大学 契約担当役 理事（総務担当） 藤 波 豊 彦

3 工事概要等

- (1) 工 事 名 弘前大学（本町）放射線安全総合支援センター研修棟（仮称）新営その他機械設備工事
- (2) 工事場所 青森県弘前市本町118番地3，126番地1 本町団地構内
- (3) 工事内容 別冊図面及び別冊仕様書のとおり
- (4) 工 期 契約締結日の翌日から令和8年3月31日（火）まで
ただし、財政法の定めにより、期間延長があり得る。
- (5) 本工事は、競争参加資格確認申請書（以下「申請書」という。）及び競争参加資格確認資料（以下「資料」という。）の提出並びに入札等を電子入札システムにより行う。電子入札は、文部科学省電子入札システムホームページ（<https://portal.ebid03.mext.go.jp/top/>）の電子入札システムにより、文部科学省電子入札の利用規程及び運用基準に基づき行うが、電子入札システムにより難しい場合は、契約担当役宛てに「紙入札承諾願」を提出し、承諾を得ること。
なお、関連する建築工事、電気設備工事は別途発注される予定である。
※「紙入札承諾願」は、別紙様式1により作成し、下記7に提出すること。
- (6) 本工事は、工事施工について、「企業の技術力」、「企業の信頼性・社会性」、「VE提案とVE提案に基づく施工計画」及び「工事全般の施工計画」（以下、「技術提案書」という。）を受け付け、価格と価格以外の要素を総合的に評価して落札者を決定する総合評価落札方式（標準型）を実施する工事である。
また、品質確保のための体制その他の施工体制の確保状況を確認し、施工内容を確実に実現できるかどうかについて審査し、評価を行う施工体制確認型総合評価落札方式の試行工事である。
- (7) 本工事は「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成12年 法律第104号）」に基づき、分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の実施が義務づけられた工事である。

4 競争参加資格

- (1) 国立大学法人弘前大学契約事務取扱規程第22条及び第23条に該当しない者であること。
※参考「国立大学法人弘前大学契約事務取扱規程（抜粋）」を参照のこと。
- (2) 令和7，8年度の文部科学省における管工事に係るA又はB等級の一般競争参加資格を有していること。（会社更生法（平成14年法律第154号）に基づき更正手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法（平成11年法律第225号）に基づき再生手続開始の申立てがなされている者については、手続開始の決定後に当該契約担当役が別に定める手続に基づく一般競争参加資格の再認定を受けていること。）
- (3) 会社更生法に基づき更正手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法に基づき再生手続開始の申立てがなされている者（上記（2）の再認定を受けた者を除く。）でないこと。
- (4) 下記6（3）に掲げる総合評価の評価項目に示す「工事全般の施工計画」、「同種工事の施工実績」、「工事成績」、「同種工事の施工経験」の欠格に該当しないこと。

(5) 平成22年度以降に、元請けとして完成、引渡しが完了した下記の要件を満たす同種工事の施工実績を有すること（共同企業体の構成員としての実績は、出資比率が20%以上の場合のものに限る。）。

- ・鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造又は鉄筋コンクリート造で、地上3階以上かつ延べ面積1,110㎡以上の公共施設、教育・研究施設又は病院の新営を行った管工事の施工実績を有すること。

経常建設共同企業体にあつては、経常建設共同企業体又は構成員のうち一者が上記の施工実績を有すること。

(6) 次に掲げる基準を満たす主任技術者又は監理技術者を当該工事に専任で配置できること。

なお、施工場所から10km以内の弘前大学が発注する同一工種工事については、同一の主任技術者が2件まで管理することを認める。また、監理技術者の職務を補佐する者として政令で定める者を専任で置いた場合には、監理技術者の兼務を2件まで認める。

① 1級管工事施工管理技士又はこれと同等以上の資格を有する者であること。なお、「これと同等以上の資格を有する者」とは、次の者をいう。

- ・これらと同等以上の資格を有する者として国土交通大臣が認定したものであること。

② 平成22年度以降に完成・引渡しが完了した上記(5)に掲げる工事の経験を有する者であること。（共同企業体の構成員としての経験は、出資比率が20%以上の場合のものに限る。）。

ただし、経常建設共同企業体の場合にあつては、一者の主任技術者又は監理技術者が同種工事の経験を有していればよい。

③ 監理技術者にあつては、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者であること。

④ 配置予定の主任技術者又は監理技術者にあつては、直接的かつ恒常的な雇用関係が必要であるので、その旨を明示することができる資料を求めることがあり、その明示がなされない場合は入札に参加できないことがある。

⑤ 経常建設共同企業体の場合の上記②ただし書きの記述に該当する者以外の者についても上記①に定める国家資格を有する主任技術者又は監理技術者を配置できること。

(7) 文部科学省、所管独立行政法人及び国立大学法人等に対し、令和5年度以降に完成・引渡しを行った工事目的物で、引渡し後に、工事の品質に関わる重大な問題が発生した事例がないこと。

(8) 申請書及び資料の提出期限の日から開札の時までの期間に、文部科学省から「建設工事の請負契約に係る指名停止等の措置要領」（平成18年1月20日付け17文科施第345号文教施設企画部長通知）（以下「指名停止措置要領」という。）に基づく指名停止を受けていないこと。

(9) 上記3に示した工事に係る設計業務等の受託者又は当該受託者と資本若しくは人事面において関連がある建設業者でないこと。

(10) 入札に参加しようとする者の間に以下の基準のいずれかに該当する関係がないこと。

① 資本関係

次のいずれかに該当する二者の場合。

(イ) 子会社等（会社法（平成17年法律第86号）第2条第3号の2）に規定する子会社等をいう。以下同じ。）と親会社等（同条第4号の2に規定する親会社等をいう。以下同じ。）の関係にある場合

(ロ) 親会社等を同じくする子会社等同士の関係にある場合

② 人的関係

次のいずれかに該当する二者の場合。ただし、(イ)については、会社等（会社法施行規則（平成18年法務省令第12号）第2条第3項第2号に規定する会社等をいう。以下同じ。）の一方が民事再生法（平成11年法律第225号）第2条第4号に規定する再生手続が存続中の会社等又は更生会社（会社更生法（平成14年法律第154号）第2条第7項に規定する更生会社をいう。）である場合を除く。

(イ) 一方の会社等の役員（会社法施行規則第2条第3項第3号に規定する役員のうち、次

に掲げる者をいう。以下同じ。)が、他方の会社等の役員を現に兼ねている場合

1) 株式会社の取締役。ただし、次に掲げる者を除く。

(i) 会社法第2 条第11 号の2 に規定する監査等委員会設置会社における監査等委員である取締役

(ii) 会社法第2 条第12 号に規定する指名委員会等設置会社における取締役

(iii) 会社法第2 条第15 号に規定する社外取締役

(iv) 会社法第348 条第 1 項に規定する定款に別段の定めがある場合により業務を執行しないこととされている取締役

2) 会社法第402 条に規定する指名委員会等設置会社の執行役

3) 会社法第575 条第1 項に規定する持分会社(合名会社, 合資会社又は合同会社をいう。)の社員(同法第590 条第1 項に規定する定款に別段の定めがある場合により業務を執行しないこととされている社員を除く。)

4) 組合の理事

5) その他業務を執行する者であって、1) から4) までに掲げる者に準ずる者

(v) 一方の会社等の役員が、他方の会社等の管財人を現に兼ねている場合

(vi) 一方の会社等の管財人が、他方の会社等の管財人を現に兼ねている場合

③ その他の入札の適正さが阻害されると認められる場合

組合(共同企業体を含む。)とその構成員が同一の入札に参加している場合その他上記①又は②と同視しうる資本関係又は人的関係があると認められる場合。

(11) 青森県, 秋田県, 岩手県, 山形県, 宮城県又は福島県に建設業法に基づく許可を有する本店, 支店又は営業所が所在すること。

(12) 警察当局から、暴力団員が実質的に経営を支配する建設業者又はこれに準ずるものとして、文部科学省発注工事等からの排除要請があり、当該状態が継続している者でないこと。

① 「暴力団員が実質的に経営を支配する建設業者」とは、「有資格業者である個人若しくは有資格業者である法人の役員等が暴力団員である者又は暴力団員がその経営に実質的に関与している有資格業者」とし、その判断は警察当局にて行うものとする。

なお、「暴力団員」とは、暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3 年法律第7 7 号。以下「暴力団対策法」という。)第2 条第6 号に規定する暴力団員を、「役員等」とは、有資格業者である法人の役員又はその支店若しくは営業所(常時、請負契約を締結する事務所をいう。)を代表するもので役員以外の者をいう。

② 「これに準ずるもの」とは、次の者をいうものとし、その判断は警察当局にて行うものとする。

(イ) 有資格業者である個人又は有資格業者の役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的、又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団員を利用するなどしているときにおける当該有資格業者。

(ロ) 有資格業者である個人又は有資格業者の役員等が、暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているときにおける当該有資格業者。

(ハ) 有資格業者である個人又は有資格業者の役員等が、暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有しているときにおける当該有資格業者。

(ニ) 有資格業者である個人又は有資格業者の役員等が、暴力団員であることを知りながら、これを不当に利用するなどしているときにおける当該有資格業者。

③ 「当該状態が継続している場合」については、該当事実の確認回数で判断するのではなく、実質的に当該状態が継続しているか否かで判断するものとし、その判断は警察当局で行うものとする。

(13) 建設業法施行規則第1 8 条の2 に定める経営事項審査を受審していること。

5 設計業務等の受託者等

(1) 上記4 (9) の「上記3 に示した工事に係る設計業務等の受託者」とは、次に掲げる者である。

・株式会社 婦木建築設備事務所

(2) 上記4(9)の「当該受託者と資本若しくは人事面において関連がある建設業者」とは、次の①から③のいずれかに該当する者である。

① 資本関係

設計業務等の受託者と建設業者の関係が、以下のいずれかに該当する場合

(イ) 子会社等と親会社等の関係にある場合

(ロ) 親会社等を同じくする子会社等同士の関係にある場合

② 人的関係

設計業務等の受託者と建設業者の関係が、以下のいずれかに該当する場合。ただし、(イ)については、会社等の一方が民事再生法(平成11年法律第225号)第2条第4号に規定する再生手続が存続中の会社等又は更生会社(会社更生法(平成14年法律第154号)第2条第7項に規定する更生会社をいう。)である場合は除く。

(イ) 一方の会社等の役員が、他方の会社等の役員を現に兼ねている場合

(ロ) 一方の会社等の役員が、他方の会社等の管財人を現に兼ねている場合

(ハ) 一方の会社等の管財人が、他方の会社等の管財人を現に兼ねている場合

③ その他の入札の適正さが阻害されると認められる場合

設計業務等の受託者と建設業者の関係が、組合(共同企業体及び設計共同体を含む。)とその構成員の関係にある場合その他上記①又は②と同視しうる資本関係又は人的関係があると認められる場合。

6 総合評価に関する事項

(1) 落札者の決定方法

① 入札参加者は、「価格」、「技術提案書」及び「企業の施工体制」をもって入札を行い、次の(ア)、(イ)、の要件に該当する者のうち、下記6(2)⑥によって得られる評価値の最も高い者を落札者とする。

(ア) 入札価格が予定価格の範囲内であること。

(イ) 評価値が、標準点を予定価格で除した数値(基準評価値)に対して下回らないこと。ただし、落札者となるべき者の入札価格によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がなされない恐れがあると認められるとき、又は、その者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなる恐れがあつて著しく不相当であると認められるときは、予定価格の制限の範囲内で、発注者の定める最低限の要求要件を全て満たして入札した他の者のうち、評価値の最も高い者を落札者としてすることがある。

② ①において、評価値の最も高い者が2人以上ある時は、くじを引かせて落札者を決定する。

(2) 総合評価の方法

標準点を100点とする。加算点は、下記6(3)①、②、③及び④の評価項目において、技術提案書の内容に応じ、最高40点を与える。なお、「VE提案とVE提案に基づく施工計画」については、入札説明書の別冊図面及び別冊仕様書に参考として示した標準案により入札に参加する(技術提案を行わない)場合は、「工事全般の施工計画」に関してのみ、加算点を算出し与える。

施工体制評価点は、下記6(3)⑤の「企業の施工体制」の評価項目において、企業の施工体制に応じ、最高30点を与える。

① 下記6(3)の「VE提案とVE提案に基づく施工計画」及び「工事全般の施工計画」(以下「企業の高度な技術力」という。)の評価点数については、入札後に施工体制評価点の得点割合を乗じて得点を算出するものとする。

入札後の「企業の高度な技術力」評価点数の合計

=入札前の「企業の高度な技術力」の評価点数の合計×(施工体制評価点/30)

② 加算点の算出方法は、下記6(3)の評価項目ごとに評価を行い、各評価項目の評価点数の合計を加算点として付与するものとする。

③ 「企業の技術力」、「企業の信頼性・社会性」については、有/無、工事成績で評価する。

④ 「VE提案とVE提案に基づく施工計画」については、評価項目毎に 優(10点)/良+(8点)/良(5点)/良-(3点)/可(0点)で評価する。

⑤ 「工事全般の施工計画」に関しては提案の内容により、優(10点)/良+(8点)/良(5点)/良-(3点)/可(0点)/不適切(欠格)で評価する。

また、⑤において、「不適切（欠格）」の評価を受けた者については、入札の参加は認められない。

⑥ 価格と価格以外の要素による総合評価は、入札参加者の「標準点」と上記6（2）②によって得られる「加算点」及び「施工体制評価点」の合計を、当該入札者の「入札価格」で除し、1億を乗じて得た「評価値」をもって行う。

（3）評価項目及び評価基準

下記の評価項目については、下記の評価基準により評価を行い、評価点数を算出する。

評価項目			評価基準	段階	評価点数	
					配点	満点
① 企業の技術力	企業の施工能力	同種工事の施工実績	国、特殊法人等（国が資本金の1/2以上を出資する法人を含む）及び地方公共団体が発注する工事の実績あり		1	1
			その他の工事の実績あり		0	
			実績なし〔欠格〕		欠格	
	工事成績	当該工事種別の令和5年度（過去2年度）以降に完成した工事成績の平均 ※工事成績相互利用登録発注機関（別表2）が発注した「公共建築工事成績評定要領作成指針」に基づく工事成績				3
			83点以上		3	
			81点以上83点未満		2	
			78点以上81点未満		1.5	
			75点以上78点未満		1	
			73点以上75点未満		0.5	
			73点未満（含実績無し）		0	
			各年度（過去2年度）の平均点が、2年連続で65点未満〔欠格〕			
			文部科学省、所管独立行政法人及び国立大学法人等（別表1）に対し、過去2年以内に完成・引渡しを行った工事目的物で、引渡し後に工事の品質に関わる重大な問題が発生した事例がある〔欠格〕		欠格	
	配置予定技術者の能力	同種工事の施工経験	国、特殊法人等（国が資本金の1/2以上を出資する法人を含む）及び地方公共団体が発注する工事において、主任（監理）技術者又は現場代理人としての経験あり		2	2
			上記以外で主任（監理）技術者又は現場代理人としての経験あり		1	
			主任（監理）技術者又は現場代理人以外での経験あり		0	
			経験なし〔欠格〕		欠格	
② 企業の信頼性・社会性	法令遵守（コンプライアンス）	事故及び不誠実な行為	あり		-2	0
			なし		0	
		全社的な対応状況	法令遵守に対する体制や規定が具体的に整備されている		2	2
			法令遵守に対する体制や規定が具体的に整備されていない		0	
	ワーク・ライフ・バランス等の推進	ワーク・ライフ・バランス等の取組に関する認定状況	えるぼし認定企業（※労働時間等の働き方に係る基準を満たすものに限る。）、プラチナえるぼし認定企業、トライくるみん認定企業、くるみん認定企業、プラチナくるみん認定企業、ユースエール認定のいずれかの認定の有無 あり		2	2
			※外国法人については、内閣府によるワーク・ライフ・バランス等推進企業認定等相当確認を受けていること。 なし		0	
③ VE提案とVE提案に基づく	総合的なコスト	ライフサイクルコスト	○ライフサイクルコスト削減に関して効果が期待できる特に優れた工夫が見られる。	優	10	10
			○ライフサイクルコスト削減に関して効果が期待できる優れた工夫が見られる。	良+	8	
			○ライフサイクルコスト削減に関して効果が期待できる工夫が見られる。	良	5	
			○ライフサイクルコスト削減に関する工夫が見られる	良-	3	
			○標準案に基づく施工 ○加算すべき工夫が見られない ○VE提案不採用	可	0	

施工計画	性能等	機能・強度・耐久性等	○機能・強度・耐久性等の建物性能や意匠上の向上などの効果が期待できる特に優れた工夫が見られる。	優	10	10
			○機能・強度・耐久性等の建物性能や意匠上の向上などの効果が期待できる優れた工夫が見られる。	良+	8	
			○機能・強度・耐久性等の建物性能や意匠上の向上などの効果が期待できる工夫が見られる。	良	5	
			○機能・強度・耐久性等の建物性能や意匠上の向上などの工夫が見られる。	良－	3	
			○標準案に基づく施工 ○加算すべき工夫が見られない。 ○VE提案不採用	可	0	
④ 工事全般の施工計画	施工上考慮すべき事項等の技術的所見	○現地の条件を踏まえて効果が期待できる特に優れた工夫が見られる。	優	10	10	
		○現地の条件を踏まえて効果が期待できる優れた工夫が見られる。	良+	8		
		○現地の条件を踏まえて効果が期待できる工夫が見られる。	良	5		
		○現地の条件を踏まえて工夫が見られる。	良－	3		
		○特に加点すべき工夫が見られない。	可	0		
		○不適切：施工計画が不適切である。又は未提出である。	不適切	欠格		
合 計						40

評価項目		評価基準	評価点数	
			配点	満点
⑤企業の施工体制	品質確保の実効性	優：工事の品質確保のための適切な施工体制が十分確保され、入札説明書等に記載された要求要件をより確実に実現できると認められる。	15	15
		良：工事の品質確保のための適切な施工体制が概ね確保され、入札説明書等に記載された要求要件を確実に実現できると認められる。	5	
		可：その他	0	
	施工体制確保の確実性	優：工事の品質確保のための施工体制のほか、必要な人員及び材料が確保されていることなどにより、適切な施工体制が十分確保され、入札説明書等に記載された要求要件をより確実に実現できると認められる。	15	15
		良：工事の品質確保のための施工体制のほか、必要な人員及び材料が確保されていることなどにより、適切な施工体制が概ね確保され、入札説明書等に記載された要求要件を確実に実現できると認められる。	5	
		可：その他	0	
合 計				30

(4) 受注者の責により、採用された「VE提案とVE提案に基づく施工計画」及び提案した「工事全般の施行計画」に基づく工事が実施されていないと認められる場合は、指名停止措置要領に基づく指名停止措置を行うものとする。

7 担当部局

〒036-8561 弘前市文京町3番地

国立大学法人弘前大学 施設環境部施設環境企画課企画グループ

TEL: 0172-39-3084 FAX: 0172-35-3833

メールアドレス: jm3084@hirosaki-u.ac.jp

8 施工体制の審査に係るヒアリング

どのように施工体制を構築し、それが入札説明書等に記載された要求要件の実現確実性の向上につながるかを審査するため、原則として、予定価格の制限の範囲内の価格で申込みをしたすべての入札参加者に対して開札後速やかにヒアリングを実施する。なお、入札価格が低入札価格調査の最低基準価格（国立大学法人弘前大学契約事務取扱規程第18条に基づく価格をいう。以下「低入札価格調査基準価格」という。別添1のI1を参照のこと。）以上の者にあつては、電話によるヒアリングをすることがある。

(1) 日 時 令和7年10月1日（水）10時から16時まで

(2) 場 所 上記7に同じ

(3) 資料の提出

入札参加者のうち、その申込みに係る価格が低入札価格調査基準価格に満たない者に対しては、技術提案書に加え、ヒアリングのための追加資料の提出を求める。追加資料を提出すべき旨の連絡は、下記12（3）の開札後、令和7年9月22日（月）17時までに入札参加者あて連絡するものとし、その提出は持参又は郵送（書留郵便等の配達記録が残るものに限る。提出期限内必着。）により、令和7年9月30日（火）15時までとする。

なお、追加資料の提出後の修正及び再提出は認めない。提出を求めることとなる追加資料は、別添1のI2のとおり。

また、低入札価格調査基準価格に満たない者に対しては下記12（3）の開札後速やかに追加資料の提出に対する意向の確認を求める場合がある。この際に、追加資料の提出の意向のない者については、下記12（3）の開札後、追加資料の提出を行わない旨を令和7年9月30日（火）15時までに上記7へ書面（様式自由）にて提出（持参又は郵送（書留郵便等の配達記録が残るものに限る。提出期限内必着。）とする。）するものとする。追加資料の提出を行わない旨の書面の提出があった者については、入札を無効として取り扱うものとする。

(4) その他

入札参加者別のヒアリング日時については、追って連絡する。ヒアリングへの出席者には、配置予定技術者を必ず含め、資料の説明が可能な者をあわせ、最大で3名以内とする。下記8（4）①及び②に掲げる事項に該当する場合は、入札に関する条件に違反した入札として無効とすることがある。なお、天災・事故等やむを得ないと認められる事由により通知したヒアリング日時に出席できない場合は、その旨を申し出ること。

審査方法の概要は、別添1のI3のとおり。

① 追加資料の提出を行わない場合

(イ) 資料が特定できない（工事名及び宛名等の記載がない）場合

(ロ) 資料に代表者名及び代表者の押印がない場合（代表者には委任状により委任を受けた者を含む。）

(ハ) 資料の全部又は一部が未提出の場合

(ニ) 資料の全部又は主要な部分の記載がない場合

(ホ) 資料が指定された様式で提出されていない場合

(ヘ) 提出期限までに資料が未提出である場合（資料の一部提出は、提出とは認めない）

② ヒアリングに応じない場合

(イ) ヒアリング日時に出席しない場合（天災・事故等やむを得ないと認められる事由で、ヒアリング時刻前にその旨申し出た場合を除く。）

(ロ) 競争参加資格確認結果通知時に資格要件「有」の条件として発注者が指定した場合は当該配置予定技術者、それ以外の場合はヒアリング出席者として入札参加者が登録した配置予定技術者がヒアリングに出席しない場合（ただし、指定又は登録した複数の配置予定技術者のうち、少なくとも1名がヒアリングに出席した場合は、本無効要件には該当しない。）

(ハ) 入札参加者に所属していない者がヒアリングに出席した場合

9 競争参加資格の確認等

- (1) 本競争の参加希望者は上記4に掲げる競争参加資格を有することを証明するため、次に掲げるところに従い、申請書及び資料並びに技術提案書（以下、「技術提案書等」という。）を提出し、国立大学法人弘前大学契約担当役から競争参加資格の有無について確認を受けなければならない。

上記4（2）に掲げる「一般競争参加資格」を有していない者も、開札の時ににおいて上記4（2）に掲げる事項を満たしていることを条件として競争参加資格があることを確認するものとする。当該確認を受けた者が競争に参加するためには、開札の時ににおいて上記4（2）に掲げる事項を満たしていなければならない。

なお、期限までに技術提案書等を提出しない者並びに競争参加資格がないと認められた者は、本競争に参加することができない。

① 提出期限：令和7年8月25日（月）12時まで。

② 提出方法：技術提案書等は電子入札システムにより提出を行うこと。ただし、紙入札参加希望者は、提出場所へ持参又は郵送（書留郵便等の配達の記録が残る方法を利用するものとする。）することとし、電送によるものは受け付けない。

- (2) 技術提案書等は、別紙様式2及び別紙様式3により作成すること。

- (3) 上記4（5）の同種の工事の施工実績及び上記4（6）の配置予定の技術者の同種の工事の経験の確認を行うに当たっては、工事の内容が判断できる資料（契約書、平面図等の写し等）を提出すること。ただし、当該工事が、財団法人日本建設情報総合センターの「工事实績情報サービス（CORINS）」に竣工登録されている場合にはCORINSの記載部分の写しを提出すること。

- (4) 競争参加資格確認申請書（別紙様式2）は、次に従い作成すること。なお、下記9（4）①の同種の工事の施工実績及び下記9（4）③の配置予定の技術者の同種の工事の経験については、平成22年度以降かつ技術提案書等の提出期限の日までに、工事が完成し引渡し済みのもの限り記載すること。

① 施工実績

上記4（5）に掲げる資格があることを判断できる同種の工事の施工実績を別紙様式2・別紙1-1に記載すること。

② 工事成績（別紙様式2・別紙1-2）

管工事における令和5年度以降に完成した工事成績の各年度の合計、工事成績を受けた工事の件数及び平均点を記載すること。併せて、記載した工事成績評定通知書の写しを提出すること。また、経常建設共同企業体については経常建設共同企業体及びその構成員ごとに、管工事における令和5年度以降に完成した工事成績の各年度の合計、工事成績を受けた工事の件数及び平均点を記載すること。

ただし、以下のいずれかに該当する者は、入札に参加できない。また、工事成績評定通知書の写しについて、令和5年度以降に完成し、工事成績を受けた全ての管工事の通知書が提出されなかった場合、又は下記ii)の工事の品質に関わる問題に関し申告を怠った場合には、落札の取消し、契約の解除又は指名停止措置を行うことがある。

i) 上記6（3）表中における工事成績において、2年連続で年度の平均点が65点未満である場合。

ii) 経常建設共同企業体又はその構成員がi)に該当している場合は、経常建設共同企業体を欠格として評価する。

iii) 工事の品質に関わる重大な問題が発生した事例がある場合

文部科学省、所管独立行政法人及び国立大学法人等に、令和5年度以降に完成・引渡しを行った工事目的物で、引渡し後に、工事の品質に関わる重大な問題が発生した事例についての有無を記載すること。また、判断できない事例がある場合は、その事例を具体的かつ簡潔に記載すること。

この場合、重大な問題の事例については、事実確認が可能な文書、写真及び新聞記事等の資料を収集し、有無の判断を行う。

なお、「重大な問題」とは、以下のア)～エ)に記載する事項である。

ア) 重大な人的被害を生じた事故がある場合

イ) 重大な人的被害を生ずる蓋然性の高い物的事故が発生したことがある場合

ウ) ア)又はイ)の事故を生ずる蓋然性の高い工事目的物の欠陥が発見された場合

エ) 上記の他、安全性に係る不具合が、数ヶ月にわたり改善されず繰り返された場合
なお、上記 6 (3) 表中の「所管独立行政法人及び国立大学法人等」とは、別表 1
に記載する法人である。

③ 配置予定の技術者

上記 4 (6) に掲げる資格があることを判断できる配置予定の技術者の資格、同種工事の経験及び申請時における他工事の従事状況等を別紙様式 2・別紙 1-3 に記載すること。

記載する同種工事の経験の件数は 1 件でよい。この場合においては、配置予定の技術者として複数の候補技術者の資格、同種の工事の経験及び申請時における他工事の従事状況等を記載することもできるが、その場合、各配置予定技術者とも競争参加資格の要件を満たすと共に上記 6 (3) 表中「配置予定技術者の能力」に係る最も低い技術者の評価点数をもって評価するものとする。

また、同一の技術者を重複して複数工事の配置予定の技術者とすることができる。ただし、他の工事を落札したことにより配置予定の技術者を配置することができなくなったときは、入札してはならず、直ちに当該申請書の取下げ又は入札の辞退を行うこと。他の工事を落札したことにより配置予定の技術者を配置することができないにもかかわらず入札した場合においては、指名停止措置要領に基づく指名停止を行うことがある。

④ 技術者の配置

技術資料について、経常建設共同企業体での参加の場合は、構成員ごとに配置予定の技術者を記入すること。

⑤ ワーク・ライフ・バランス等の取組 (別紙様式 2・別紙 1-5)

「ワーク・ライフ・バランス等の取組に関する決定状況」を提出すること。

⑥ 契約書等の写し

別紙様式 2・別紙 1-1・別紙 1-3 に係る資料として、①の同種の工事の施工実績として記載した工事の内容が判断できる資料 (契約書、平面図の写し等) 及び当該技術者が従事したことを判断できる資料を提出すること。

(5) 技術提案書 (別紙様式 3) は次に従い作成すること。

① VE 提案と VE 提案に基づく施工計画

入札参加希望者は、VE 提案により施工しようとする場合は、VE 提案に基づく施工方法等の技術的事項に対する所見について記載すること。また、VE 提案が不採用となった場合には、標準案に基づいて入札に参加することができる。

VE 提案を行う場合は、VE 提案が不採用になった場合に、標準案に基づいて入札に参加する意思の有無、また、VE 提案を行わない場合は、VE 提案を行わない旨を明記し、別紙様式 3・別紙 2-1 から 2-2 を全て提出すること。

② 工事全般の施工計画

VE 提案を行わない入札参加希望者も、全てが別紙様式 3・別紙 2-3 により、提案を行うこと。「不適切 (欠格)」の評価を受けた入札参加希望者については、入札への参加を認めない。

(6) 競争参加資格の確認は、技術提案書等の提出期限の日をもって行うものとし、その結果は令和 7 年 9 月 8 日 (月) までに電子入札システムで通知する。(ただし、書面により申請した場合は、書面で通知する。)

(7) VE 提案の採否については、競争参加資格の確認の通知に併せて通知する。その際 VE 提案が不採用の場合は、その理由を付して通知する。

(8) その他

① 技術提案書等の作成及び提出に係る費用は、提出者の負担とする。

② 契約担当役は、提出された技術提案書等を、競争参加資格の確認以外に提出者に無断で使用しない。

③ 提出された技術提案書等は返却しない。

④ 提出期限以降における技術提案書等の差し替え及び再提出は認めない。

⑤ 複数の技術提案書等の提出書類は、1 つのファイルにまとめ添付して送信すること。契約書等の印がついているものは、スキャナーで読み込み本文に貼り付けること。提出書類の容量が大きく添付できない場合は、書類の全てを令和 7 年 8 月 25 日 (月) 12 時までに必着で郵送 (書留郵便等の配達記録が残るものに限る。提出期限内必着。) 又は持参すること。郵送で書類を提出した場合は、以下の内容を記載した書類 (様式は自由) のみを送信すること。

なお、この書面の押印は不要。

- ・郵送又は持参とする旨
- ・郵送又は持参する書類の目録
- ・郵送又は持参する書類の頁数
- ・発送年月日

なお、郵送又は持参する場合は、別紙様式2及び3に押印すること。

- ⑥ 採用された技術提案については、その後の工事において、その内容が一時的に使用されている状態になったときは、無償で利用できるものとする。ただし、工業所有権などの排他的権利を有する提案についてはこの限りでない。
- ⑦ 技術提案書提出者は、技術提案が採用されたことにより、設計図書において施工方法などを指定しない部分の工事に関する責任が軽減されるものではない。
- ⑧ 技術提案書等に関する問い合わせ先 上記7に同じ。

10 競争参加資格がないと認めた者又は、VE提案が採用されなかった者に対する理由の説明

- (1) 競争参加資格がないと認められた者又はVE提案が採用されなかった者は、国立大学法人弘前大学契約担当役に対して競争参加資格がないと認めた理由及び技術提案を採用しなかった理由について、次に従い書面（様式は自由）により説明を求めることができる。
 - ① 提出期限：令和7年9月16日（火）12時
 - ② 提出先：上記7に同じ。
 - ③ 提出方法：書面は持参又は郵送（書留郵便等配達記録が残るものに限る。提出期限内必着。）することにより提出するものとし、電送によるものは受け付けない。
- (2) 国立大学法人弘前大学契約担当役は、説明を求められたときは、令和7年9月24日（水）に電子メールにより送付する（受信確認した旨の電子メールを必ず返信すること）。

11 入札説明書等に対する質問

- (1) この入札説明書等に対する質問がある場合においては、次に従い書面（様式は自由）により提出すること。
 - ① VE提案に関する質問
 - 1) 提出期間：令和7年7月30日（水）9時から令和7年8月8日（金）12時まで（土曜日、日曜日及び祝日を除く。）。
 - ② 入札説明書に関する質問
 - 1) 提出期間：令和7年8月25日（月）9時から令和7年9月8日（月）12時まで（土曜日、日曜日及び祝日を除く。）。
 - ③ 提出先：上記7に同じ。
 - ④ 提出方法：電子メールにより提出すること。ただし、質問内容を記載した書面を持参又は郵送（書留郵便等の配達記録が残るものに限る。提出期間内必着）してもよい。
なお、電子メールも可とする。
- (2) (1) の質問に対する回答書は、以下のとおりとする。
 - ① VE提案に関する回答

令和7年8月20日（水）までに電子メールにより送付する（受信確認した旨の電子メールを必ず返信すること）。
 - ② 入札説明書に関する回答

令和7年9月12日（金）までに電子メールにより送付する（受信確認した旨の電子メールを必ず返信すること）。

12 入札及び開札の日時及び場所等

- (1) 入札期間：令和7年9月12日（金）9時から令和7年9月17日（水）12時まで（土曜日、日曜日及び祝日を除く。）。
- (2) 入札場所：〒036-8561 弘前市文京町3番地 弘前大学施設環境部（電子入札システム）
- (3) 開札日時：令和7年9月18日（木）13時30分
- (4) 開札場所：入札場所に同じ

- (5) その他：紙入札方式による入札参加の承諾を得て紙入札方式による入札を行った者は、上記場所で開札に立ち会うこと。なお、立ち会いの際には、契約担当役により競争参加資格があることが確認された旨の通知書の写しを持参すること。

13 入札方法等

- (1) 「入札書」は、電子入札システムにより提出すること。ただし、契約担当役の承諾を得て紙入札による場合は、持参すること。なお、郵送又は電送（ファクシミリ、電子メール）による入札は認めない。
- (2) 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する金額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額）をもって落札価格とするので、入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約希望金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。
- (3) 入札執行回数は、原則として2回を限度とする。

14 入札保証金及び契約保証金

- (1) 入札保証金 免除。
- (2) 契約保証金 納付。（有価証券等の提供又は銀行、契約担当役が確実と認める金融機関若しくは保証事業会社（公共工事の前払金保証事業に関する法律（昭和27年法律第184号）第2条第4項に規定する保証事業会社をいう。）の保証をもって契約保証金の納付に代えることができ、公共工事履行保証証券による保証を付し、又は履行保証保険契約の締結を行った場合は、契約保証金を免除するものとする。）なお、契約保証金の額、保証金額又は保険金額は、請負代金額の100分の10以上とする。

15 工事費内訳書の提出

- (1) 第1回目の入札に際し、第1回目の入札書に記載される入札金額に対応した工事費内訳書の提出を求める。入札書に工事費内訳書ファイルを添付して同時に送付すること。
- (2) 工事費内訳書の様式は自由であるが、記載内容は最低限、数量、単価、金額等を明らかにすること。また、工事費内訳書には住所、名称又は商号及び代表者の氏名並びに工事名を記載し、ファイル形式は以下によること。

- ・Microsoft Word
- ・Microsoft Excel
- ・PDF ファイル

なお、ファイルは、電子入札システムが指定する容量以内に収めるものとし、圧縮することにより容量以内に収まる場合は、LZH形式又はZIP形式により圧縮（自己解凍方式は認めない。）して送付することを認める。容量が大きく容量以内に収まらない場合は持参又は郵送（書留郵便等の配達記録が残るものに限る。提出期限内必着。）することにより提出するものとする。

- (3) 入札参加者は押印（電子入札システムにより工事費内訳書を提出する場合を除く。）及び記名を行った工事費内訳書を提出しなければならないが、提出した工事費内訳書について契約担当者又は契約担当役（これらの補助者を含む。）が説明を求めることがある。また、工事費内訳書が、次の表各項に該当する場合については、競争加入者心得第30第12号に該当する入札として、原則として当該工事費内訳書提出者の入札を無効とする。

1. 未提出であると認められる場合（未提出であると同視できる場合を含む）	(1) 内訳書の全部又は一部が提出されていない場合
	(2) 内訳書とは無関係な書類である場合
	(3) 他の工事の内訳書である場合
	(4) 白紙である場合
	(5) 内訳書に押印が欠けている場合（電子入札システムにより工事費内訳書が提出される場合を除く）
	(6) 内訳書が特定できない場合
	(7) 他の入札参加者の様式を入手し、使用している場合

2. 記載すべき事項が欠けている場合	(1) 内訳の記載が全くない場合
	(2) 入札説明書に指示された項目を満たしていない場合
3. 添付すべきではない書類が添付されていた場合	(1) 他の工事の内訳書が添付されていた場合
4. 記載すべき事項に過ちがある場合	(1) 発注者名に誤りがある場合
	(2) 発注案件名に誤りがある場合
	(3) 提出業者名に誤りがある場合
	(4) 内訳書の合計金額が入札金額と大幅に異なる場合
5. その他未提出又は不備がある場合	

入札後、落札業者が不良・不適格な業者と疑われるに至った場合、低入札価格調査を行う場合又は当該工事において談合があると疑うに足る事実があると認められた場合においては、提出された工事費内訳書の内容を確認するものとする。なお、談合があると疑うに足る事実があると認められた場合には、必要に応じ工事費内訳書を公正取引委員会に提出するものとする。

- (4) 契約担当役の承諾を得て、入札参加者が紙による入札を行う場合には、工事費内訳書は表封筒と入札書を入れた中封筒の間に入れて、表封筒及び中封筒に各々封緘をして提出すること。
- (5) 工事費内訳書は、参考図書として提出を求めるものであり、入札及び契約上の権利義務を生じるものではない。
- (6) 施工体制確認型総合評価落札方式を行う場合、工事費内訳書は、価格以外の要素が提示された技術提案書の参考図書として提出を求めるものであり、入札書と同時に、入札書に記載される金額に対応した工事費内訳書が提出されないときは、第1回入札書に記載される入札金額に対応した工事費内訳書の提出が上記15(1)に違反して行われず、競争加入者心得第30第12号に該当するものとして入札を無効とする場合を除き、価格以外の要素として提示された性能等の審査を行うことなく施工体制評価点を0点とするとともに、加算点についても0点とする場合がある。

16 開札

開札は、電子入札システムにより行うこととし、入札事務に関係のない職員を立ち会わせて行う。

また、入札参加者が紙による入札を行う場合には、当該紙による入札参加者は開札時に立ち会うこと。なお、第1回目の開札に立ち会わない紙による入札参加者は、再度入札を行うこととなった場合には再度入札を辞退したものとして取り扱う。

17 入札の無効

入札公告に示した競争参加資格のない者のした入札、申請書又は資料に虚偽の記載をした者のした入札並びに別冊現場説明書及び別冊競争加入者心得において示した条件等入札に関する条件に違反した入札は無効とし、無効の入札を行った者を落札者としていた場合には落札決定を取り消す。

なお、契約担当役により競争参加資格のある旨確認された者であっても、開札の時に上記4に掲げる資格のないものは競争参加資格のない者に該当する。

18 落札者の決定方法

- (1) 本学が定める予定価格の制限の範囲内で有効な入札を行った者のうち最高の評価値をもって入札した者を落札者とする。

ただし、落札者となるべき者の入札価格によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不適当であると認められるときは、予定価格の制限の範囲内の価格をもって入札した他の者のうち最高の評価値をもって入札した者を落札者として取り扱うことがある。

- (2) 落札者となるべき者の入札価格が国立大学法人弘前大学契約事務取扱規程第18条に基づく価格（以下「最低基準価格」という。）を下回る場合は、同条の調査（低入札価格調査）を行うものとする。

なお、最低基準価格の詳細については別添 1 「Ⅰ．施工体制確認型総合評価落札方式について」及び「Ⅱ．国立大学法人弘前大学契約事務取扱規程第 18 条の調査について」を参照すること。

19 配置予定主任技術者又は監理技術者の確認

落札者決定後、CORINS 等により配置予定の主任技術者又は監理技術者の専任制違反の事実が確認された場合には、契約を結ばないことがある。なお、病休・死亡・退職等極めて特別な場合でやむを得ないとして承認された場合の外は、申請書の差替えは認められない。病気等特別な理由により、やむを得ず配置技術者を変更する場合は、上記 4（6）に掲げる基準を満たし、かつ当初の配置予定技術者と同等以上の者を配置しなければならない。

20 契約書作成の可否等

別紙工事請負契約書（案）により、契約書を作成するものとする。

21 支払条件

請負代金は、請求に基づき 3 回（前払金及び中間前払金を含む。）以内に支払うものとする。

ただし、国立大学法人弘前大学工事請負契約事務取扱細則第 12 条の規定により 1 回の支払いとなる場合がある。

22 工事保険

受注者は、工事の目的物及び工事材料について組立保険契約を締結すること。

23 非落札理由の説明

（1）非落札者のうち、落札者の決定結果に対して不服がある者は、落札者決定の公表を行った日の翌日から起算して 5 日（土曜日、日曜日及び祝日を除く。）以内に、契約担当役に対して非落札理由について説明を求めることができる。

① 提出先：上記 7 に同じ。

② 提出方法：持参又は郵送（書留郵便等の配達記録が残るものに限る。提出期限内必着。）により提出するものとする。

（2）契約担当役は、説明を求められたときは、説明を求めることができる最終日から起算して 5 日（土曜日、日曜日及び祝日を除く。）以内に書面により回答する。

24 再苦情申立て

（1）契約担当役からの競争参加資格がないと認めた理由又は非落札理由の説明に不服がある者は、上記 10（2）又は 23（2）の回答を受けた日の翌日から起算して 7 日（土曜日、日曜日及び祝日を除く。）以内に書面により契約担当役に対して、再苦情の申立てを行うことができる。当該再苦情申立については、工事入札等監視委員会が審議を行う。

（2）提出場所及び再苦情申立に関する手続等を示した書類等の入手先 上記 7 に同じ。

25 関連情報を入手するための照会窓口 上記 7 に同じ。

26 手続における交渉の有無 無

27 対象工事に直接関連する他の工事の請負契約を、対象工事の請負契約の相手方との随意契約により締結する予定の有無 無

28 その他

（1）契約の手続において使用する言語及び通貨は、日本語及び日本国通貨に限る。

（2）入札参加者は、入札説明書及び別冊競争加入者心得・工事請負契約基準を熟読し、競争加入者心得を遵守すること。（競争加入者心得・工事請負契約基準は本学施設環境部ホームページに掲

載。<https://home.hirosaki-u.ac.jp/shisetsu/template/>)

- (3) 申請書又は資料に虚偽の記載をした場合においては、指名停止措置要領に基づく指名停止を行うことがある。
- (4) 提出した入札書の引換え、変更、取消しをすることはできないので、十分に確認して入札すること。また、落札決定後、落札者が契約を結ばないときは、原則、指名停止措置要領に基づく指名停止を行うものとする。
- (5) 本工事に経常建設共同企業体又は協業組合として申請を行った場合は、単体有資格者として申請を行うことはできない。
- (6) 第1回目の入札が不落になった場合は、直ちに再度入札に移行する。再入札の日時については、電子入札及び紙入札が混在する場合があるため、発注者から指示する。開札時間から30分以内には、発注者から再入札通知書を送信するので、パソコンの前で待機すること。待機しないことで第2回目以降の再入札を指定の時間までに行わなかった場合は、辞退したものととして取扱う。なお、開札処理に時間を要し、予定時間を超える場合は、発注者から連絡する。
- (7) 落札となるべき同じ評価値の入札をした者が2者以上あるときは、文部科学省電子入札システム運用基準の5-4「くじになった場合の取扱い」による。
- (8) 落札者は、申請書別紙1-3に記載した配置予定技術者を当該工事の現場に配置すること。
- (9) 本工事は、数量公開の対象工事であり、予定価格のもととなる工事費内訳書等から単価及び金額等を削除するなどの加工・編集を施したもの（以下「数量書」という。）を参考資料（参考数量）として公開、提供する。数量書は、見積を行うために必要な図面及び仕様書の交付と同時に公開し、その提供方法は入札説明書の交付と同様とする。

この数量書に対する質問がある場合においては、次により提出するものとする。

なお、入札説明書等に対する質問書と数量書に対する質問書は区別して提出するものとする。

また、数量書に対する質問において、数量の差異等に係わる質問については、差異の根拠となる数量を算出した過程を示す資料も合わせて提出するものとする。
- ① 提出期間：令和7年8月25日（月）9時から令和7年9月8日（月）12時まで（土曜日、日曜日及び祝日を除く）。
- ② 提出先：上記7に同じ。
- ③ 提出方法：電子メールにより提出すること。ただし、質問内容を記載した書面を持参又は郵送（書留郵便等の配達記録が残るものに限る。提出期間内必着）してもよい。
- ④ 回答書：数量書に対する質問書への回答書は、令和7年9月12日（金）に電子メールにより送付する（受信確認した旨の電子メールを必ず返信すること）。
- (10) 入札説明書等を入手した者は、これを本入札手続以外の目的で使用してはならない。
- (11) 障害発生時及び電子入札システム操作等の問合せ先は下記のとおりとする。
 - ① システム操作・接続確認等の問合せ先
文部科学省電子入札システムヘルプデスク 電話：0570-001184
 - ② ICカードの不具合等発生等の問合せ先
取得しているICカードの認証機関
ただし、申請書又は応札等の締め切り時間が切迫しているなど緊急を要する場合は、先ず上記7に連絡すること。

別表 1

「所管独立行政法人及び国立大学法人等」

各国立大学法人	
大学共同利用機関法人	
人間文化研究機構	自然科学研究機構
高エネルギー加速器研究機構	情報・システム研究機構
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	独立行政法人国立青少年教育振興機構
独立行政法人国立女性教育会館	独立行政法人国立科学博物館
独立行政法人国立美術館	独立行政法人国立文化財機構
国立研究開発法人科学技術振興機構	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構
独立行政法人日本スポーツ振興センター	独立行政法人日本芸術文化振興会
独立行政法人日本学生支援機構	独立行政法人国立高等専門学校機構 (各高等専門学校)
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	独立行政法人大学入試センター
国立研究開発法人物質・材料研究機構	国立研究開発法人防災科学技術研究所
国立研究開発法人放射線医学総合研究所	独立行政法人教員研修センター
独立行政法人日本学術振興会	国立研究開発法人理化学研究所
国立研究開発法人海洋研究開発機構	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構
公立学校共済組合	日本私立学校振興・共済事業団
文部科学省共済組合	放送大学学園

※上記は、現行の法人であるが、統合等以前の法人が発注した工事の実績についても含む。

工事成績相互利用登録機関（令和 6 年 2 月 29 日現在）

■ 中央官庁営繕担当課長連絡調整会議構成員

中央官庁	発注機関・部署等
衆議院	衆議院庶務部営繕課及び電気施設課
参議院	参議院事務局管理部営繕課、電気施設課
国立国会図書館	国立国会図書館総務部会計課及び国立国会図書館関西館総務課
最高裁判所	最高裁判所及び各高等裁判所
内閣府 (内閣官房)	内閣府大臣官房会計課 内閣総務官室（会計担当） 沖縄総合事務局開発建設部営繕課
警察庁	警察庁長官官房会計課 警察大学校、科学警察研究所、皇宮警察本部、各管区警察局、各管区警察学校、北海道警察情報通信部及び東京都警察情報通信部 警視庁及び各道府県警察本部の発注に係る工事のうち支出負担行為担当官が発注するもの
法務省	法務省大臣官房施設課及び各法務局、検察庁、行刑施設、少年施設、鑑別所、観察所、出入国在留管理庁（旧入国管理局を含む。）、公安調査局
外務省	大臣官房会計課
財務省	財務本省、国税庁及び地方支分部局の発注に係る工事
文部科学省	文部科学省等 国立大学法人等
厚生労働省	厚生労働省
農林水産省	農林水産省大臣官房経理課（～H27. 9. 30） 〃 〃 予算課（H27. 10. 1～）
国土交通省	大臣官房官庁営繕部、地方整備局（営繕部及び営繕事務所）及び北海道開発局営繕部 航空局空港技術課（旧空港安全・保安対策課、旧技術企画課、旧建設課を含む。）、地方航空局空港部建築室（旧土木建築課を含む。）及び機械課並びに航空交通管制部施設運用管理官（旧施設課を含み、旧航空灯火・電気技術室を除く。）
環境省	自然環境局、各国民公園等管理事務所、各地方環境事務所、各都道府県の自然公園等事業担当部（局）（環境省から施行委任したものに限る）
防衛省	北海道、東北、北関東、南関東、近畿中部、中国四国、九州、沖縄各防衛局（旧防衛施設局を含む。）及び帯広、東海、熊本各防衛支局（旧防衛施設支局を含む。） 本省内部部局、防衛大学校、防衛医科大学校、防衛研究所、統合幕僚監部、陸上幕僚監部、海上幕僚監部、航空幕僚監部、情報本部、防衛監察本部、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊、防衛装備庁

(参考資料)

国立大学法人弘前大学契約事務取扱規程（抜粋）

第1条

～ 一略～

第21条

（一般競争に参加させることができない者）

第22条 契約担当役は、特別の理由がある場合を除くほか、次の各号のいずれかに該当する者を一般競争に参加させることはできない。

- (1) 当該契約を締結する能力を有しない者
- (2) 破産手続開始の決定を受けて復権を得ない者
- (3) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第32条第1項各号に掲げる者

（一般競争に参加させないことができる者）

第23条 契約担当役は、一般競争に参加しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、その者について3年以内の期間を定めて一般競争に参加させないことができる。その者を代理人、支配人その他の使用人として使用する者についても、また同様とする。

- (1) 契約の履行にあたり故意に工事若しくは製造を粗雑にし、又は物件の品質若しくは数量に関して不正の行為をしたとき。
- (2) 公正な競争の執行を妨げた者又は公正な価格を害し、若しくは不正な利益を得るために連合したとき。
- (3) 落札者が契約を結ぶこと又は契約者が契約を履行することを妨げたとき。
- (4) 監督又は検査の実施に当たり職員の職務の執行を妨げたとき。
- (5) 正当な理由がなくて契約を履行しなかったとき。
- (6) 同項（同号を除く。）の規定により一般競争に参加できないこととされている者を契約の締結又は契約の履行に当たり、代理人、支配人その他の使用人として使用したとき。

2 契約担当役は、前項の規定に該当する者を入札代理人として使用する者を一般競争に参加させないことができる。

第24条

～

一略一

紙入札方式参加承諾願

1. 工 事 名 : 弘前大学(本町)放射線安全総合支援センター研修棟(仮称)新営その他
機械設備工事
2. 電子入札システムで参加できない理由 :

上記工事は電子入札対象案件ではありますが、当社は、上記理由により電子入札システムでの参加ができないため、今回に限り紙入札方式での参加を希望します。

国立大学法人弘前大学
契約担当役
理事(総務担当) 殿

令和 年 月 日

住 所
商号又は名称
代表者氏名

印

競争参加資格確認申請書

令和 年 月 日

国立大学法人弘前大学
契約担当役
理事（総務担当） 殿

住 所
商号又は名称
代表者氏名

㊞

令和7年7月30日付けで公告のありました「弘前大学（本町）放射線安全総合支援センター研修棟（仮称）新営その他機械設備工事」に係る競争参加資格について確認されたく、下記の書類を添えて申請します。

なお、入札説明書の4（競争参加資格）に関し、次の事項について誓約します。

- ・ 国立大学法人弘前大学契約事務取扱規程第22条及び第23条の規定に該当しない者であること。
- ・ 会社更生法及び民事再生法に基づく更正及び再生手続開始の申し立てがなされている者でないこと。
- ・ 現在、文部科学省から指名停止を受けていないこと。
- ・ 入札説明書に記載する本工事に係る実施設計業務の受注者と資本若しくは人事面において関連がある建設業者でないこと。
- ・ 資本関係又は人的関係がある者が当該入札に参加しようとしていないこと（資本関係又は人的関係がある者のすべてが共同企業体の代表者以外の構成員である場合を除く）。
- ・ 青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県又は福島県に本店、支店又は営業所が所在すること。
- ・ 警察当局から暴力団員に類する者として排除要請されている者でないこと。
- ・ 建設業法施行規則第18条の2に定める経営事項審査を受審していること。
- ・ 申請書等提出書類の内容については事実と相違ないこと。

記

1. 令和7、8年度の「一般競争（指名競争）参加資格認定通知書」（写）
2. 入札説明書の9に定める内容を記載した書面（別紙様式2～別紙様式3）
3. 上記を証明するCORINS、施工図面等の写し、契約書、資格証等

注） なお、契約担当役の承諾を得て紙入札方式とする場合は、申請書に返信用封筒（表に申請者の住所及び商号又は名称を記載し、簡易書留料金を加えた所定の料金に相当する切手を貼った長3号封筒とする。）を添えて提出すること。

同種工事の施工実績

弘前大学（本町）放射線安全総合支援センター研修棟（仮称）新営その他機械設備工事

会社名：_____

同種工事の 判 断 基 準		平成 2 2 年度以降に，元請けとして完成・引渡しが完了した下記施工実績 ・鉄骨造，鉄骨鉄筋コンクリート造又は鉄筋コンクリート造で，地上 3 階以上かつ延べ面積 1，1 1 0 m ² 以上の公共施設，教育・研究施設又は病院における新営を行った管工事の施工実績を有すること。 （共同企業体の構成員としての実績は，出資比率が 2 0 % 以上の場合のものに限る。）の中から代表的なものを 1 件記載する。
工 事 名 称 等	工 事 名 称	
	発注機関名	
	施 工 場 所	（都道府県名・市町村名）
	契 約 金 額	（千円単位）
	工 期	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日
	受注形態等	単 体 / 共同企業体（出資比率 %）
工 事 概 要	建 物 用 途	
	構 造 ・ 階 数	
	建 物 規 模	（m ² ）
	工 事 内 容	（判断基準を満たすことがわかるように工事内容等を記載する。）
CORINS登録の有無		有（C O R I N S 登録番号）・無

工 事 成 績

弘前大学（本町）放射線安全総合支援センター研修棟（仮称）新営その他機械設備工事

会社名：_____

i) 工事成績の平均点

以下の様式に従い、当該工事種別の工事成績の平均点を算出する。

工事成績相互利用登録発注機関が発注した「公共建築工事成績評定要領作成指針」に基づく工事成績	令和 5 年度	令和 6 年度
a : 各年度の工事件数	a ₁ =	a ₂ =
b : 各年度の工事成績の合計点数	b ₁ =	b ₂ =
x : 各年度の平均点 $x = b / a$	x ₁ =	x ₂ =
y : 過去 2 年間の平均点 $y = (b_1 + b_2) / (a_1 + a_2)$	y =	

注 1 本項目は、工事成績相互利用登録発注機関の実績がない場合は、なしと記入の上提出すること。

注 2 各年度の平均点及び過去 2 年間の平均点の算出にあたっては、小数点以下第 2 位を四捨五入する。

注 3 工事成績評定の通知書の写しを年度毎に整理して添付すること。

ii) 工事の品質に関わる重大な問題の有無

以下の様式に従い、文部科学省、所管独立行政法人及び国立大学法人等に、令和 5 年度以降に完成・引渡しを行った工事目的物で、引渡し後に、工事の品質に関わる重大な問題が発生した事例についての有無を記載すること。また、判断できない事例がある場合は、有・無欄は選択せず、その事例について具体的かつ簡潔に記載すること。

重大な問題が発生した事例	有 ・ 無
--------------	-------

○事 例

工事名	発注者
完成年月日 令和 年 月 日	引渡年月日 令和 年 月 日
具体的な内容（発生時期、発生場所、内容、原因、対応状況等）	

注 1 「重大な問題」とは、以下のア)～エ)に記載する事項である。

ア) 重大な人的被害を生じた事故がある場合

イ) 重大な人的被害を生ずる蓋然性の高い物的事故が発生したことがある場合

ウ) ア) 又はイ) の事故を生ずる蓋然性の高い工事目的物の欠陥が発見された場合

エ) 上記の他、安全性に係る不具合が、数ヶ月にわたり改善されず繰り返された場合

注 2 「所管独立行政法人及び国立大学法人等」とは、入札説明書の別表 1 に記載する機関をいう。

配置予定技術者の資格及び同種工事の施工経験

弘前大学（本町）放射線安全総合支援センター研修棟（仮称）新営その他機械設備工事
会社名：

氏 名		主任（監理）技術者 ○○○○
法令による 資格・免許		(例) 1 級管工事施工管理技士（取得年月日，登録番号） ・技術士（取得年月日） ・監理技術者資格（初回交付年月日，登録番号） ・監理技術者講習（修了年月日，登録番号） 注）例は抹消すること
同 種 工 事 の 判 断 基 準		平成 2 2 年度以降に，元請けとして完成・引渡しが完了した下記施工経験 ・鉄骨造，鉄骨鉄筋コンクリート造又は鉄筋コンクリート造で，地上 3 階以上かつ延べ面積 1， 1 1 0 m ² 以上の公共施設，教育・研究施設又は病 院における新営を行った管工事の施工実績を有すること。 （共同企業体の構成員としての経験は，出資比率が 2 0 % 以上の場合のも のに限る。）の中から代表的なものを 1 件記載する。
工 事 経 験 の 概 要	工 事 名 称	
	発 注 者 名	
	施 工 場 所	（都道府県名・市町村名）
	契 約 金 額	（千円単位）
	工 期	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日
	従 事 役 職	監理技術者・主任技術者・現場代理人
	建 物 用 途	
	構 造 ・ 階 数	
	建 物 規 模 等	（m ² ）
	工 事 内 容	（上記「同種工事の判断基準」を満たすことがわかるように記入すること）
	CORINSへの登録	有（CORINS登録番号） ・ 無
工 事 成 績 （R3以降完成のみ）	点 工事成績評定の通知書の写し及び技術者が従事したことを判断できる資料を添付すること 工事成績相互利用登録発注機関の実績がない場合は，「なし」と記入する	
現 在 の 他 工 事 従 事 状 況	現 況	現在従事中の工事の有無 / 有 ・ 無 （有の場合は以下を記入する）
	工 事 名 称	
	工 期	令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日
	本工事と重複する 場合の対応措置	（従事中工事の専任要件の有無を記入し，有の場合は重複しないことを記入すること）

会社名：_____

弘前大学（本町）放射線安全総合支援センター研修棟（仮称）新営その他機械設備工事

事故及び不誠実な行為

1. 営業停止

青森県内において受けた営業停止措置のうち、令和 7 年 3 月 1 8 日以降に期間が終了したものを全て記載すること。	
措置を行った機関	営業停止の期間
(記載例) 国土交通省関東地方整備局	(記載例) 令和 7 年 3 月 1 日から令和 7 年 3 月 3 1 日（1 ヶ月）

2. 指名停止

全国又は東北地域において受けた文部科学省による指名停止措置のうち、令和 7 年 3 月 1 8 日以降に期間が終了したものを全て記載すること。	
措置を行った機関	指名停止の期間
(記載例) 文部科学省	(記載例) 令和 7 年 3 月 1 日から令和 7 年 3 月 3 1 日（1 ヶ月）

注 営業停止及び指名停止の通知の写しを添付すること
記載例は抹消すること（該当するものがない場合は、「該当なし」と記載すること）

法令遵守に対する全社的な対応状況

法令遵守に対する全社的な体制や規定の整備	有 ・ 無
----------------------	-------

注 有・無のいずれかに○をつけること。有に○をつけた場合は、対応状況がわかる資料（社内コンプライアンスマニュアル、企業倫理綱領の抜粋等）を添付すること。（一般的な就業規則、文書管理手順書、車両管理運用規程等の資料は該当しない。）

ワーク・ライフ・バランス等の取組に関する認定状況

ワーク・ライフ・ バランス等の取組 に関する認定の有 無	有 ・ 無
	<p>有の場合は、該当する取組の□を■に変更すること</p> <p><input type="checkbox"/> 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）に基づく認定（えるぼし認定企業（※労働時間等の働き方に係る基準を満たすものに限る。）・プラチナえるぼし認定企業）又は一般事業主行動計画策定済（常時雇用する労働者の数が100人以下のものに限る）</p> <p><input type="checkbox"/> 次世代育成支援対策推進法（次世代法）に基づく認定（トライくるみん認定企業・くるみん認定企業・プラチナくるみん認定企業）</p> <p><input type="checkbox"/> 青少年の雇用の促進等に関する法律（若者雇用促進法）に基づく認定（ユースエール認定）</p> <p>※外国法人については、内閣府によるワーク・ライフ・バランス等推進企業認定等相当確認を受けていること。</p>

注 有・無のいずれかに○をつけること。有に○をつけた場合は、該当する取組の認定を受けていることを証明できる資料を添付すること。

技 術 提 案 書

国立大学法人弘前大学
 契約担当役
 理事（総務担当） 殿

住所
 商号又は名称
 代表者氏名 印

令和 7 年 7 月 3 0 日付けで公告のありました弘前大学（本町）放射線安全総合支援センター研修棟（仮称）新営その他機械設備工事に係る技術提案を、下記及び別紙のとおり提出します。

評価項目	提案の有無	添付資料の有無
●総合的なコスト ライフサイクルコスト削減に関する技術的提案	有 / 無	有 / 無
●性能等 機械設備の性能等（機能，強度，耐久性等）向上に関する技術的提案	有 / 無	有 / 無
●施工上考慮すべき事項	有	有 / 無

※注 1 電子入札システムを用いて提出すること。ただし、競争参加資格確認申請書，競争参加資格確認資料及び技術提案書の合計容量が，許容の容量を超える場合，やむを得ず紙入札方式により参加する場合は，持参又は郵送（書留郵便に限る。）（締切日時必着）で提出すること。

※注 2 印については，紙入札方式による場合のみ押印するものとする。

V E 提案と V E 提案に基づく施工計画書

弘前大学（本町）放射線安全総合支援センター研修棟（仮称）新営その他機械設備工事

☐ 弘前大学（本町）放射線安全総合支援センター研修棟（仮称）新営その他機械設備工事における標記の施工計画については以下のとおり提案します。本施工計画が認められた場合には、本計画書に基づき施工します。

☐ 当該工事は、標準案に基づき施工します。

●総合的なコスト：ライフサイクルコスト削減に関する技術的提案		
提 案	具体的な施工計画	添付の有無
		有（ 枚） ・ 無
		有（ 枚） ・ 無
		有（ 枚） ・ 無
		有（ 枚） ・ 無
		有（ 枚） ・ 無

V E 提案と V E 提案に基づく施工計画書

弘前大学（本町）放射線安全総合支援センター研修棟（仮称）新営その他機械設備工事

評価項目 ①総合的なコスト

注 1 本評価項目についての提案は、（別紙 2 - 1）で簡潔に記述すること。

注 2 必要に応じて説明図（文書が主体となるものでないこと）を添付すること。

説明図は 1 枚以内（A 4 版又は A 3 版両面可）とし、ページ番号を付すとともに、工事名を 1 ページ目に明記すること。

V E 提案と V E 提案に基づく施工計画書

弘前大学（本町）放射線安全総合支援センター研修棟（仮称）新営その他機械設備工事

☐ 弘前大学（本町）放射線安全総合支援センター研修棟（仮称）新営その他機械設備工事における標記の施工計画については以下のとおり提案します。本施工計画が認められた場合には、本計画書に基づき施工します。

☐ 当該工事は、標準案に基づき施工します。

●性能等：機械設備の性能等（機能，強度，耐久性等）向上に関する技術的提案		
提 案	具体的な施工計画	添付の有無
		有（ 枚） ・ 無
		有（ 枚） ・ 無
		有（ 枚） ・ 無
		有（ 枚） ・ 無
		有（ 枚） ・ 無

V E 提案と V E 提案に基づく施工計画書

弘前大学（本町）放射線安全総合支援センター研修棟（仮称）新営その他機械設備工事

評価項目 ②性能等

注 1 本評価項目についての提案は、（別紙 2 - 1）で簡潔に記述すること。

注 2 必要に応じて説明図（文書が主体となるものでないこと）を添付すること。

説明図は 1 枚以内（A 4 版又は A 3 版両面可）とし、ページ番号を付すとともに、工事名を 1 ページ目に明記すること。

工事全般の施工計画

弘前大学（本町）放射線安全総合支援センター研修棟（仮称）新営その他機械設備工事

工事全般の施工計画

・ 提案内容

弘前（豪雪地帯）という地域性，工事用地の条件（校舎敷地，狭隘，景観条例等），発注者（ユーザー）との意思疎通及び要望等を踏まえ施工上考慮すべき事項等として，下記事項における技術的所見を求める。

1. 工事中の工程管理（工期短縮を含む）について
2. 教育・研究活動等に支障を及ぼさない施工方法について
3. 現場内・周辺における事故防止・安全対策について
4. 発注者（ユーザー）との意思疎通及び要望等を確実に実現するための施工方法について

【提案にあたっての留意点】

- ・ 本計画は必ず提案すること。（未提出は欠格とする。）
- ・ 方策やその効果を具体的に提示すること。証明が不十分と本学が判断した場合は，加点評価をしない。
- ・ 提案に伴う工事費の増額については，発注者は増額を行わないので受注者の責で提案すること。

注 1 1 ページ以内（A 4 版）で簡潔に記述すること。

注 2 必要に応じて工程表及び説明図（文書が主体となるものでないこと）を添付すること。

工程表及び説明図は 1 枚以内（A 4 版又は A 3 版両面可）とし，ページ番号を付すとともに，工事名を 1 ページ目に明記すること。

施工体制確認型総合評価落札方式について

I 施工体制確認型総合評価落札方式

1 低入札価格調査基準価格

低入札価格調査基準価格は、予定価格算出の基礎となった次に掲げる額の合計額に、100分の110を乗じて得た額とする。ただし、その額が予定価格に10分の9.2を乗じて得た額を超える場合にあっては予定価格に10分の9.2を乗じて得た額とし、予定価格に10分の7.5を乗じて得た額に満たない場合にあっては予定価格に10分の7.5を乗じて得た額とする。

- (1) 直接工事費の額に10分の9.63を乗じて得た額
- (2) 共通仮設費の額に10分の9を乗じて得た額
- (3) 現場管理費の額に10分の9を乗じて得た額
- (4) 一般管理費等の額に10分の6.8を乗じて得た額

2 ヒアリングのための追加資料【※各様式略】

- (1) 入札参加者の申込みに係る価格が記1の低入札価格調査基準価格に満たないときは、次の様式の提出を求めるものとする。

- ・下請予定業者等一覧表（様式4）
- ・配置予定技術者名簿（様式5）
- ・資材購入予定先一覧（様式8－2）
- ・機械リース元一覧（様式9－2）
- ・労務者の確保計画（様式10－1）
- ・工種別労務者配置計画（様式10－2）
- ・建設副産物の搬出地（様式11）
- ・建設副産物の搬出及び資材等の搬入に関する運搬計画書（様式12）
- ・品質確保体制（品質管理のための人員体制）（様式13－1）
- ・品質確保体制（品質管理計画書）（様式13－2）
- ・品質確保体制（出来形管理計画書）（様式13－3）
- ・安全衛生管理体制（安全衛生教育等）（様式14－1）
- ・安全衛生管理体制（点検計画）（様式14－2）
- ・施工体制台帳（様式16）

- (2) VE提案等の内容に基づく施工を行うことによりコスト縮減の達成が可能となる場合は、コスト縮減額の算定根拠として次の様式を提出するものとする。

なお、これらの提出がない場合には、当該コスト縮減に関する評価を行わない。

- ・積算内訳書（兼）コスト縮減額算定調書①（様式2－1）
- ・内訳書に対する明細書（兼）コスト縮減額算定調書②（様式2－2）
- ・VE提案等によるコスト縮減額調書（様式3）

3 審査方法の概要

施工体制に関する審査は、技術提案書、本文記8の施工体制確認のためのヒアリング、記8（3）の追加資料及び工事費内訳書等をもとに、次の各項目について行う。なお、記8（3）の追加資料の提出をしない場合及びヒアリングに応じない場合には、入札に関する条件に違反したものとしてその者の入札を無効とすることがある。

(1) 入札説明書等に記載された要求要件を実現できること

入札価格の範囲内において入札説明書等に記載された要求要件が実現できるかを審査する。審査の結果、要求要件が実現できないと認めるときは、技術提案を採用せず、標準点、施工体制評価点及び加算点は与えないものとする。

(2) 品質確保の実効性

入札価格の範囲内において、どのように工事の品質確保のための体制づくりを行い、それが入札説明書等に記載された要求要件の実現に係る確実性の向上につながるかについて審査する。

入札参加者の申込みに係る価格が記1の低入札価格調査基準価格以上であるときは、審査項目に関する体制が必ずしも十分に構築されないと認める事情がある場合に限り、品質確保の実効性に係る施工体制評価点を満点から減点する。

入札参加者の申込みに係る価格が記1の低入札価格調査基準価格を満たさないときは、工事品質確保について契約の内容に適合した履行がされないこととなるおそれがあることから、次の審査項目に関する体制が構築されると認める場合に限り、その程度に応じて品質確保の実効性に係る施工体制評価点を加点する。特に、下請業者における赤字の発生及び工事成績評定点における低評価が顕著になるなど品質確保のための体制その他の施工体制が著しく確保されないおそれがある価格（予定価格の算定の前提とした下表の表上欄に掲げる各費用項目の金額〔直接工事費の額〕は、直接工事費からその10分の1を減じた額とし、「現場管理費の額」は現場管理費に直接工事費から減じた直接工事費の10分の1を加えた額）に、同表下欄に掲げる率をそれぞれ乗じ、さらに100分の110を乗じて得た金額を合計した価格をいう。（3）において同じ。）に満たない価格で入札した者については、審査を特に重点的に行い、審査項目に関する体制をどのように構築するかが具体的に確認（証明）できる場合に限り施工体制評価点を加点する。

【審査項目】

- ①建設副産物の受入れ、過積載防止等の法令遵守の対応を確実に行うことが可能と認められるか（様式11、様式12）
- ②安全確保の体制が構築されると認められるか（様式14－1、様式14－2）
- ③その他工事の品質確保のための体制が構築されると認められるか（様式13－1、様式13－2、様式13－3）

直接工事費	共通仮設費	現場管理費	一般管理費等
75%	70%	70%	30%

(3) 施工体制確保の確実性

入札価格の範囲内において、品質確保のための体制のほか、どのように施工体制づくりを行い、それが入札説明書等に記載された要求要件の実現に係る確実性の向上につながるかについて審査する。

入札参加者の申込みに係る価格が記1の低入札価格調査基準価格以上であるときは、審査項目に関する体制が必ずしも十分に構築されないと認める事情がある場合に限り、施工体制確保の確実性に係る施工体制評価点を満点から減点する。

入札参加者の申込みに係る価格が記1の低入札価格調査基準価格を満たさないときは、施工体制確保について契約の内容に適合した履行がされないこととなるおそれがあることから、次の審査項目に関する体制が構築されると認める場合に限り、その程度に応じて施工体制確保の確実性に係る施工体制評価点を加

点する。特に、下請業者における赤字の発生及び工事成績評定点における低評価が顕著になるなど品質確保のための体制その他の施工体制が著しく確保されないおそれがある価格に満たない価格で入札した者については、審査を特に重点的に行い、審査項目に関する体制をどのように構築するかが具体的に確認（証明）できる場合に限り施工体制評価点を加点する。

【審査項目】

- ①下請会社、担当工種、工事費内訳書等を勘案し、施工体制が確実に構築されると認められるか（様式4，様式16）
- ②施行計画を実施するための資機材の調達、労務者の確保計画等を勘案し、施工体制が確実に構築されると認められるか（様式8－2，様式9－2，様式10－1，様式10－2）
- ③配置予定技術者が必要な資格を有しており、その配置が確実に認められるか（様式5）

Ⅱ 国立大学法人弘前大学契約事務取扱規程第18条の調査について

- 1 低入札価格調査基準価格を下回る入札が行われた場合には、入札者に対して「保留」と宣言し、同条第3項の調査（低入札価格調査）を実施する。

ここで、低入札価格調査基準価格は、記Ⅰ1に記載するとおりである。

- 2 低入札価格調査においては、次のような内容につき、入札者からの事情聴取、関係機関への照会等の調査を行う。

- (1) その価格により入札した理由
- (2) 契約対象工事附近における手持工事の状況
- (3) 契約対象工事に関連する手持工事の状況
- (4) 契約対象工事箇所と入札者の事務所、倉庫等との関連（地理的条件）
- (5) 手持資材の状況
- (6) 資材購入先及び購入先と入札者の関係
- (7) 手持機械数の状況
- (8) 労務者の具体的供給見通し
- (9) 過去に施工した公共工事名及び発注者
- (10) 経営内容
- (11) (1) から (10) までの事情聴取した結果についての調査確認
- (12) (9) の公共工事の成績状況
- (13) 経営状況（取引金融機関、保証会社等への照会を行う。）
- (14) 信用状況（建設業法違反の有無、賃金不払いの状況、下請代金の支払遅延状況、その他）
- (15) その他必要な事項

工 事 請 負 契 約 書 (案)

工 事 名 弘前大学（本町）放射線安全総合支援センター研修棟（仮称）新営その他
機械設備工事

請負代金額 金 円也
(うち取引に係る消費税及び地方消費税の額 金 円也)

発注者 国立大学法人弘前大学 契約担当役 理事（総務担当） 藤 波 豊 彦 と 受注者
との間において、上記工事について、上記の請負
代金額で、次の条項によって請負契約を締結し、信義に従って誠実にこれを履行するものとする。

- 第 1 条 受注者は、別冊の図面及び仕様書に基づいて、工事を完成するものとする。
第 2 条 工事は、青森県弘前市本町 1 1 8 番地 3， 1 2 6 番地 1 本町団地構内において施工する。
第 3 条 着工時期は、令和 7 年 月 日とする。
第 4 条 完成期限は、令和 8 年 3 月 3 1 日とする。
第 5 条 契約保証金は、納付する。ただし、有価証券等の提供又は金融機関若しくは保証事業会社の保証をもって契約保証金の納付に代えることができる。また、公共工事履行保証証券による保証を付し、又は履行保証保険契約の締結を行った場合は、契約保証金を免除する。
第 6 条 受注者は、工事の目的物及び工事材料について組立保険契約を締結するものとする。
第 7 条 請負代金（前払金及び中間前払金を含む。）は、3 回以内で支払うものとする。
第 8 条 完成通知書は、弘前大学施設環境部施設環境企画課に送付するものとする。
第 9 条 請負代金（前払金及び中間前払金を含む。）の請求書は、弘前大学施設環境部施設環境企画課に送付するものとする。
第 1 0 条 請負代金については、金 円以内の額を前払金として前払するものとする。この支払いは、請求書を受領した日の翌月末までにするものとする。
第 1 1 条 請負代金については、金 円以内の額を中間前払金として前払するものとする。この支払いは、請求書を受領した日の翌月末までにするものとする。
第 1 2 条 受注者は、採用された次の「V E 提案と V E 提案に基づく施工計画」及び「工事全般の施工計画」の提案内容を履行しなければならない。

V E 提案と V E 提案に基づく施工計画	採用された提案内容
〇〇〇	別記のとおり。
工事全般の施工計画	
〇〇〇	別記のとおり。

- 第 1 3 条 受注者の責めにより、採用された「V E 提案と V E 提案に基づく施工計画」及び提案した「工事全般の施工計画」に基づく工事が実施されないと認められる場合は、「建設工事の請負契約に係る指名停止等の措置要領について」（平成 1 8 年 1 月 2 0 日付 1 7 文科施第 3 4 5 号文教施設企画部長通知）に基づく指名停止措置を行うものとする。
第 1 4 条 この契約についての一般的約定事項は、国立大学法人弘前大学が定めた工事請負契約基準によるものとする。
第 1 5 条 この契約について、発注者受注者間に紛争を生じたときは、双方協議の上これを解決するものとする。
第 1 6 条 本契約に関する訴えの管轄は、国立大学法人弘前大学所在地を管轄区域とする青森地方裁判所弘前支部とするものとする。
第 1 7 条 この契約に定めのない事項について、これを定める必要がある場合は、発注者受注者間において協議して定めるものとする。

上記契約の成立を証するため、発注者・受注者は次に記名し、印を押すものとする。
この契約書は、2通作成し、双方で各1通を所持するものとする。

令和 年 月 日

発注者 青森県弘前市文京町1番地
 国立大学法人弘前大学
 契約担当役
 理事（総務担当） 藤 波 豊 彦

受注者

【別記】

VE提案とVE提案に基づく施工計画	採用された提案内容
〇〇〇	〇〇〇
〇〇〇	〇〇〇
工事全般の施工計画	採用された提案内容
〇〇〇	〇〇〇

【代表者等氏名】

(別紙①)

建築物に係る解体工事

1 分別解体等の方法

工程ごとの作業内容及び解体方法	工 程	作 業 内 容	分別解体等の方法 (※)
	①建築設備・内装材等	建築設備・内装材等の取り外し <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用 併用の場合の理由 ()
	②屋根ふき材	屋根ふき材の取り外し <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用 併用の場合の理由 ()
	③外装材・上部構造部分	外装材・上部構造部分の取り壊し <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	④基礎・基礎ぐい	基礎・基礎ぐいの取り壊し <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	⑥その他 ()	その他の取り壊し <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用

※「分別解体等の方法」の欄については、該当がない場合は記載の必要はない。

2 解体工事に要する費用（直接工事費） _____ 円（税抜き）

(注)・解体工事の場合のみ記載する。

- ・解体工事に伴う分別解体及び積込みに要する費用とする。
- ・仮設費及び運搬費は含まない。

3 再資源化等をする施設の名称及び所在地

特定建設資材廃棄物の種類	施 設 の 名 称	所 在 地

4 再資源化等に要する費用（直接工事費） _____ 円（税抜き）

(注)・運搬費を含む。

(別紙②)

建築物に係る新築工事等（新築・増築・修繕・模様替）

1 分別解体等の方法

工程ごとの作業内容及び解体方法	工 程	作 業 内 容	分別解体等の方法（※）
	①造成等	造成等の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	②基礎・基礎ぐい	基礎・基礎ぐいの工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	③上部構造部分・外装	上部構造部分・外装の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	④屋根	屋根の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	⑤建築設備・内装材等	建築設備・内装材等の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	⑥その他 ()	その他の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用

※「分別解体等の方法」の欄については、該当がない場合は記載の必要はない。

2 解体工事に要する費用（直接工事費） _____ 円（税抜き）

3 再資源化等をする施設の名称及び所在地

特定建設資材廃棄物の種類	施 設 の 名 称	所 在 地

4 再資源化等に要する費用（直接工事費） _____ 円（税抜き）

（注）・運搬費を含む。

(別紙③)

建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事等（土木工事等）

1 分別解体等の方法

工程ごとの作業内容及び解体方法	工 程	作 業 内 容	分別解体等の方法（※）
	①仮設	仮設工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	②土工	土工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	③基礎	基礎工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	④本体構造	本体構造の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	⑤本体付属品	本体付属品の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	⑥その他 ()	その他の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用

※「分別解体等の方法」の欄については、該当がない場合は記載の必要はない。

2 解体工事に要する費用（直接工事費） _____ 円（税抜き）

（注）・解体工事の場合のみ記載する。

- ・解体工事に伴う分別解体及び積込みに要する費用とする。
- ・仮設費及び運搬費は含まない。

3 再資源化等をする施設の名称及び所在地

特定建設資材廃棄物の種類	施 設 の 名 称	所 在 地

4 再資源化等に要する費用（直接工事費） _____ 円（税抜き）

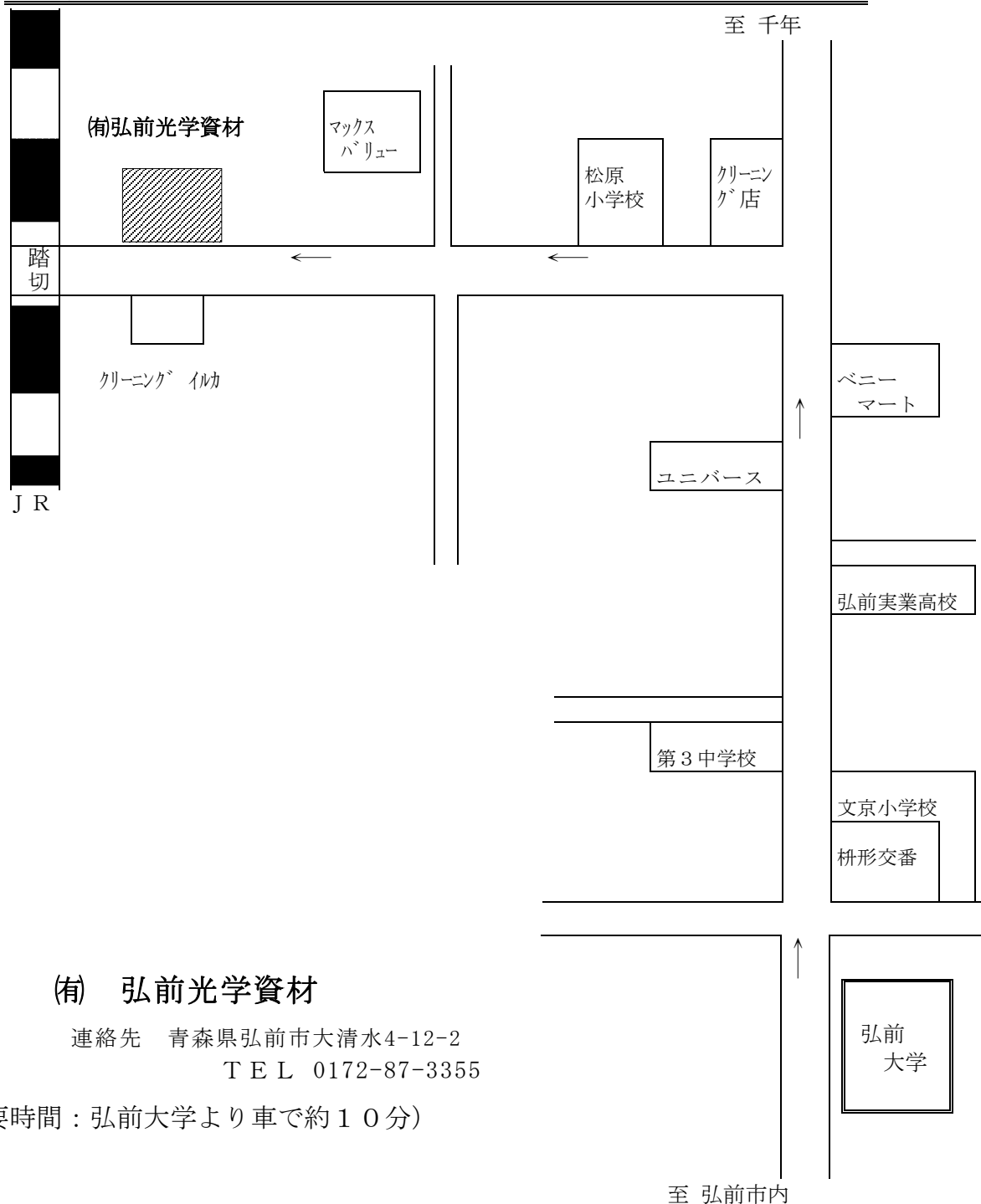
（注）・運搬費を含む。

図面等購入場所案内図

工事名：弘前大学（本町）放射線安全総合支援センター研修棟（仮称）新営その他機械設備工事

上記工事の図面・特記仕様書・現場説明書等については、下記案内図の業者より購入してください。その際、名刺をお渡し願います。

交付期間：令和7年7月30日（水）～令和7年9月17日（水）12時



(有) 弘前光学資材

連絡先 青森県弘前市大清水4-12-2
TEL 0172-87-3355

(所要時間：弘前大学より車で約10分)